

ケアタウン小平だより

薰風 5月の臨時号

東奔西走



(医) 悠翔会 ケアタウン小平クリニック 名誉院長

認定 NPO 法人 コミュニティケアリンク東京

ふみお
理事長 山崎章郎



「先生が、患者さんと会話をしている場面に立ち会って、とても辛かったです」

と、若い看護師さんに、涙目で言われた事があります。25年ほど前、私が東京都小金井市にある聖ヨハネ会桜町病院ホスピス（緩和ケア病棟）にいた頃の話です。

彼女は、都内的一般病院で勤務していた方でしたが、いざなはホスピスで働きたいと、ホスピスでの研修に来ていたのです。その日の研修は、医師の回診に同行し、診察場面を見学する事でした。

彼女に、辛かったですと、抗議を始めた口調で言われた場面は、ホスピスでは特別な場面ではありませんでした。限られた時間を生きる患者さんが、その日に備えながら大切な時間を過ごすためには、お別れの日が近づいていることを前提にした話をする事は、稀なことではありません。その日も、その様な会話が展開されていました。



それは、残されたかけがえのない時間をどのように過ごすのかという患者さんの想いを確認し、実現するために必要なコミュニケーションだからです。患者さんの尊厳を守るためのコミュニケーションと言っても良いと思います。

私は彼女に「何が辛かったのですか？」と質問してみました。彼女は「死ぬのが怖いからです」と涙目で答えました。



ホスピスの
ラウンジ

私は「ホスピスで過ごされている患者さんたちは、あなたが怖いと言っている死に向かっている方々なんですよ」と話し、「その方々を看護する立場の人が、死は怖いと思っていたら、その死に直面している患者さんたちは、不安と恐怖の中で死に向かうことになりませんか」と問い合わせ、まずは、いろいろな方々の「死生観」について学び、その上で、それでもホスピスの看護を目指したいという気持ちに変わりがなければ、もう一度研修に来ませんか？と伝えました。忘れられないエピソードです。

尊厳を守るためのコミュニケーション

もう少し話を掘り下げてみたいと思います。緩和ケアの基本は、在宅であれ、病院であれ、どのような困難な状況でも、患者さんが全人的な意味で自己肯定出来るように支援することです。そのためには、患者さんが、その状況をどう理解し、何を望んでいるのかを知るための適切な傾聴※が必要になります。

ケアに携わる私たちの役割は、困難な状況の中で途方に暮れていた患者さんが、傾聴によって内省を深め、その結果として自己決定したその決定を尊重し、その実現を共に目指すことなのです。

そのような関わりを通して、患者さんは何時でもどこでも、自分が主人公として尊重されていることを実感し、尊厳ある一人の人間としての自己肯定が可能になると思われます。

次に、分かりきったことではありますが、どのような疾患であれ、終末期にある患者さんのご家族は、必ずご遺族になります。であればこそ、緩和ケアに必須な家族ケアは、いずれ確実にご遺族になることを見据えたものでなければなりません。

そのためには、患者さんの身に今起こっていること、これから起こりえることなどを、また、そのことに対して何が出来るのか、あるいは何が出来ないのかなどを、ご家族と共有できるまで、何度も丁寧にお伝えする必要があります。

この場面でも、ご家族の理解や疑問を確認し

ながら、その場面場面におけるご家族の想いを受け止める傾聴は必須になります。そのような関わりを通して、やがて来る患者さんの死を、ご家族が納得できるものとして受け止めることができれば、生涯に渡って、後悔に満ちた日々を過ごすことは避けられるのではないでしょか？

※人は経験や感情、価値など「自分の枠組み」の中で相手の話を理解・評価しがちだが、傾聴は、相手の感じていること、伝えたいことを理解しようと耳を傾けること



臨床試験参加者と桜町病院小林名誉院長とともに
ホスピスの玄関前

NHK BS ドキュメンタリーのこと

ところで、私は、現在、ステージ4の大腸がん患者さんを対象に「がん共存療法」と名付けた臨床試験に取り組んでいます。それは、標準治療（抗がん剤治療）は受けたが、副作用などで離脱せざるをえず、他に保険適応のある治療法のない状態で途方に暮れている「がん難民」とも言われている方々に、新たな選択肢を提案出来ないかを模索するためのものです。残念ながら参加人数が少なく、エビデンスレベルは低いのですが、手ごたえは感じています。

その取り組みが、3月と4月にわたって3回ほど NHKBS スペシャルで放映されました。ご覧いただいた方から様々な感想を頂きましたが、前述しました私の想いが十分には伝わってこなかったことが残念だった、という感想も少なくありませんでした。



中庭からのホスピス

不偏不党を掲げる NHK としては、参加人数が少ない現時点での臨床試験を肯定的に放映することは難しかったのだと思っています。

皆様には、是非、3月21日に配信されました読売新聞オンライン記事「ステージ4のがんを抱える緩和ケア医・山崎章郎さんの試みと『死後のビジョン』とは？」をお読みいただければと思います。私の想いが、率直に、肯定的にまとめられています。NHKBSスペシャルと読売新聞の記事を併せてご覧いただくことで、より正確な私の現状がお分かりいただけるかと思います。

居酒屋ふーちゃんへのご招待

さて、この「ケアタウン小平だより」をお読みになっている皆様にとって、いずれ訪れる「死」は、いかがなものでしょうか？

私は先立たれた多くの皆様との交流を通して「死」は、現世から、次の世界への通過点に過ぎないと思うようになりました。次の世界では、病や障害など様々な困難から解放され、現世よりも、もっと軽やかで、楽しい日々が待っています。

ねぼり・はぼり・ふかぼり

Q. 放送では、先生も試験参加者も揺れ動く心の葛藤が映し出されていて、見ていて苦しくなったりもしたけど、同じ目的をもった同志でもある参加者との普段のやり取りは、放送のようにシリアスなんですか？



A. 普段の臨床試験外来でのやり取りは、私も、参加者も同じステージ4のがん患者同士ということもあり、医師と患者の関係というよりも、運命を共にする友人同士のような会話が多いです。シリアスな部分もありますが、何を食べたとか、旅行に行ったとか、友達と飲みに行って、はめを外してしまった等、笑いも多く、穏やかなやり取りがほとんどですね！（P1の写真参照）

現在の私の夢の一つは、次の世界で居酒屋を開店することです。店名は私の子供の頃の通称「ふーちゃん」です。先立たれた皆様とこれから来られる皆様が、自由に、おおらかに、交流できる居場所を作りたいのです。

訪問看護やデイサービス、ケアマネジメントや子育て支援活動など「ケアタウン小平チーム」の中核として当NPO法人は、経営上の困難を抱えながらも、スタッフの奮闘、チーム各所のご理解ご協力とともに、皆様のご寄付やボランティア活動など、様々な形で多大なご支援を結集して「住み慣れた街で最期まで生きて逝く」ことの出来る地域づくりに取り組んでまいりました。

今までのご支援に対する感謝の気持を込めて、いつの日か、必ず皆様を「居酒屋ふーちゃん」にご招待いたします。つきましては、皆様、引き続き、現世でのご支援よろしくお願ひいたします。

こちらから記事が読めますのでどうぞ



「読売新聞オンライン
山崎章郎」で検索

[https://www.yomiuri.co.jp/column/henshu/
20250318-OYT8T50011/](https://www.yomiuri.co.jp/column/henshu/20250318-OYT8T50011/)

居酒屋
ふーちゃん
ご招待券



コミュニティケアリンク東京の活動にご協力ください

当 NPO 法人ではよりよい活動を展開していくため、皆様からのご寄付をお願いしております。ご寄付をいただいた方には「ケアタウン小平だより」等、各種活動のお知らせを送らせていただいているます。

①郵便局からの払込の場合…

口座記号番号 00100-1-279489

加盟店名 (特) コミュニティケアリンク東京

②銀行・ネットバンキングからのお振込の場合…

ゆうちょ銀行

店名 ○一九店 (ゼロイチキュウ店)

口座 当座) 0279489

名義 特定非営利活動法人

コムニティケアリンク東京

認定 NPO 法人への、3,000 円以上の寄付・贊助会員費は、確定申告にて寄付金控除が適用されます。

寄附金の最大 50% の税額控除が受けられます。

(所得税のほか、住民税を含めた場合)

☆所得税の税額控除方式なら

(寄附金額-2,000 円) × 40% = 税額控除額

☆個人住民税

(寄附金額-2,000 円) × 10% に相当する額

※対象寄附金額、控除額には上限があります。

詳細は事務局又は国税庁ホームページを確認ください。



【お願い】 払込用紙ご利用の際は通信欄に「寄付金として」と明記ください

銀行振込やネットバンキングを利用した寄付の際は、ご寄付の・氏名・住所を NPO 法人事務局へメールまたはお電話いただけますと大変助かります。よろしくお願ひいたします。

✉ linktokyo-jim@w7.dion.ne.jp ☎ 042-321-5985

4月も半ばを過ぎ、ケアタウン小平の中庭に3匹の鯉のぼりが泳ぎ始めました。デイサービススタッフ相馬さんのお姑さん(さっちゃん)が、お孫さんの成長を祈り用意された鯉のぼりだそうです。そのお孫さんはしっかりと成長されました。今、風に泳ぐ鯉のぼりの下では、いつぶく荘の入居者やデイサービスご利用者が憩い、放課後は子どもたちが走り回ります。さっちゃんの鯉のぼりは、たくさんの人たちの幸いを見つめてくれていますよ、と今は施設で暮らされているご本人に、この場を借りてお伝えしたいと思います。

ご来店の際にご利用ください。



全席眺めは○ですが、いい席をご用意いたします。開店はもう少し先の予定です。



本券の有効期間【いつまでも】

(編集後記)

店主許可の下、当分使われないことを願いつつ、ご支援への感謝として招待券をお届けします。昨今の季節は、春きたりなば夏目前です。皆さまくれぐれもお体大切に!! (N)

